

生活単元学習指導案

1. 日時 平成 26 年（2014 年）10 月 31 日（金） 5 校時

2. 学年 支援級

3. 場所 教室

4. 単元名 野菜を育てよう 小単元「おいしいためものを作ろう」

5. 単元目標

- ・野菜を育てることを通して、野菜の変化や成長の様子に気付き、野菜への親しみを持ち、大切に育てることができる。
- ・将来の自立した生活の基礎となるように、自分たちで話し合い活動をし、調理の計画を立て実習をすることを通して、調理のよさや楽しさを知ることができる。

6. 評価規準

【生活への関心・意欲・態度】

- ①野菜の変化や成長に関心を持ち、大切に育てようとしている。
- ②育てた野菜を使って意欲的に調理しようとしている。
- ③家族や地域で働く人に関心を持とうとしている。

【活動や体験についての思考・表現】

- ①自分たちで育てた野菜をおいしく料理したいという願いを持っている。
- ②学習したことをワークシートに絵や文章に表している。
- ③調べたことや体験したことを振り返り、自分の思いを相手に伝えている。

【身近な環境や自分についての気付き】

- ①育てている野菜の変化や成長、野菜に合った調理の仕方があることに気付いている。
- ②人との関わりを持つことにより、社会性を身につけようとしている。

7. 単元について

本校の生活単元学習では、栽培活動・調理活動を中心に、児童の生活上の課題処理や問題解決のため、体験を通して自立的な生活に必要な事柄を実際的・総合的に学習している。年間を通した野菜の栽培活動では、これまでジャガイモ・ミニトマト・キュウリ・ナス・ピーマン・シシトウ・インゲン・三尺ささげなど様々な野菜を育ててきた。現在は、キャベツ・ブロッコリー・大根・かぶ・人参・玉ねぎ・水菜・小松菜を育てている。今年度は、野菜の栽培活動や収穫後の調理活動だけでなく、野

菜の栽培を通して、幅広く学習内容を考え実践してきた。理科的な学習では、インゲン豆の発芽を観察し、室内と路地の成長の違いを比べた。また、実際の野菜の花を使って花のつくり(おしべとめしべ)や実ができる仕組みを学習した。いずれも、NHKの番組の情報(動画)などで補足をして理解を深めさせた。また社会的な学習では、都道府県の学習で野菜の産地や特産物等にふれてきた。そして、今回「野菜は、茹でたり、炒めたりするとどう変化するのか」という家庭科の視点も育てたいと思い、この小単元を設定した。本単元では、変化が分かりやすい野菜の中で、本校でも栽培しているキャベツを選んだ。一般的な料理活動の中で多く扱われ、短時間で変化がわかり、児童も見慣れている「炒める」活動を取り扱うこととした。現時点では、冬野菜の収穫時期には間に合わず、市販のキャベツを使用し、キャベツの産地にも触れ、都道府県の学習にも関連付ける。冬野菜の収穫時期には、この学習を生かして様々な野菜を使って炒め物料理を作っていきたい。また、社会性を育み、コミュニケーションスキルを高めることをねらい、話し合い活動を取り入れている。支援級の道徳の授業で話し合い活動の指導をしており、自立活動の指導内容も合わせて取り組み、生活単元学習で一般化できるようにしている。

8. テーマを具現化するための手立て

テーマ 「豊かな学びを創り出すのびっ子の育ち」

サブテーマ 「子どものおもいに寄り添った主体的な問題解決を目指す授業づくり」

(1) 実体験の重視

① 体験活動を取り入れ、見通しを持たせる。

生活の経験不足から見通しが持てず、体験活動に不安を持ってしまう児童もいる。野菜の栽培活動や調理を毎年行うことにより、見通しを持ち落ち着いて活動に取り組むことができる。そのことより児童から思いや願いを生み出しやすくなると考えられる。

② 子どもにとって身近な内容にする。

日頃、自ら育ててきた野菜を扱うことにより、児童は、お店で売っている野菜より、とても身近で新鮮に感じることができる。また、水をやったり雑草を抜いたりするなどの世話をすることや、日々の成長を観察することにより、さらに野菜を大切にしたい気持ちを持つことができる。野菜を収穫し、「野菜をおいしく食べたい。」「こんな料理をしてみたい。」など、思いや願いを強く引き出すことができる。

③ 取り組んだことが、成功に結びついたということを実感できる内容にする。

成功体験を味わうことで、達成感や次の活動への意欲につながると考える。また、わずかな進歩でも褒めたり、励ましたりするようにする。

(2) 言語活動の重視

① ワークシートを活用する。

観察や振り返りの視点を明確にしたワークシートを用意し、絵や言葉で記入できるようにする。一人一人が記入したことをみんなの前で発言する機会を持ち共有化したり、活動を振り返って充

実感を味わったりできるようにする。

② 自ら調べる。

課題に対して、全員が自分で考え解決することは難しい。しかし、調理に関しては手立てがあれば調べることができる。本・パソコンやお家の人にインタビューして調べることにより、自分の意見として発言できるようにする。

③ グループでの話し合いや活動を取り入れる。

小人数のグループで話し合いをすることで、自分の意見や考えが発言しやすくなる。仲間意識もでき、協力して活動しようとする意欲が生まれる。役割(司会、発表、ボードを持つ人)を決め、「話し合いの進め方」マニュアルを活用することで自主的に活動できるようにする。班の中についた教師が、児童一人一人の意見をくみ取ったり、考えをまとめたりする支援をする。

9. 指導計画 (全7時間)

教師の投げかけ	ねがい
児童の発想	気づき

学習活動の流れ	時間	教師の指導・支援	評価の観点と方法
<p>キャベツを炒めると どうなるのだろう？</p> <p>C 生のキャベツはかたい C いためるとやわらかくて食べやすい。 C 生は、あまりにおいがない。 C いためると甘い。</p> <p>いためるよさを知ろう。 C いためたほうが、やわらかい。 野菜をたくさん食べれそう。</p> <p>おいしい炒め物を作って食べたい。</p>	1 本時	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が炒め、五感を使って違いを実感できるようにする。 ・グループの司会は、児童、記録は、教師がする。 	<p>興味関心を持って観察し様子をワークシートに記入する。</p> <p>【思・表②】 記入したことを発言している。</p> <p>【思・表③】</p>
<p>おいしい野菜炒めを作る工夫を調べよう。</p> <p>C お家の人にきいてくる。 C インターネットで調べてくる。</p>	1	<ul style="list-style-type: none"> ・各自調べる方法を決めさせ、家庭学習で調べてくる。 	<p>家族の人に進んで聞いて調べようとしている。</p> <p>【関・意・態③】 調べたことをワークシートに記入する。</p> <p>【思・表①②】</p>

<p>おいしい野菜炒めの作り方をグループで発表しよう。</p> <p>C 火の通りやすい大きさに切る。 C 固い材料から炒める。 C 強火で手早く炒める。 C 最後に味をつける。</p>	1	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が記録をとり、グループごとに、作り方や美味しく作るポイントをまとめる。 	<p>調べたことを発言することができる。</p> <p>【思・表③】</p>
<p>グループでおいしい野菜炒めを作る計画を立てよう。</p> <p>材料 用具 役割分担 美味しく作る工夫</p> <p>C 材料を洗うよ。 C 水菜を切りたいな。 C 調味料を入れるよ。</p>	1	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の話し合いを元にさらに役割分担をして活動に見通しを持たせたい。 	<p>美味しい野菜炒めを作りたいという願いを持っている。</p> <p>【思・表①】</p> <p>野菜炒めの調理計画をワークシートの記入する</p> <p>【思・表②】</p>
<p>おいしい野菜炒めを作ろう。(調理)</p>	2	<ul style="list-style-type: none"> ・役割分担を確認する。 ・安全面(コンロ、包丁の使い方)に十分注意をさせる。 	<p>進んで調理に取り組んでいる。</p> <p>【関・意・態②】</p>
<p>野菜炒め作りの計画の振り返りをしよう</p> <p>C 醤油を少し入れたらおいしかった。 C 野菜の切り方が上手だった。 C いためると野菜がおいしくなる。 C お家の人にも作ってあげたい C 畑の野菜をこれからも育て、おいしい料理を作っていきたい。</p>	1	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに絵と言葉で記入させる。おいしく作るために工夫したことや今度頑張りたいことも書かせる。 	<p>野菜炒めの振り返りワークシートの記入し、発表する。</p> <p>【思・表②③】</p> <p>手軽にできる炒め物をおうちの人も作りたいという気持ちを持つ。</p> <p>【気付き①②】</p> <p>畑の野菜を大切に育てていこうとする意識を持つ。</p> <p>【関・意・態①】</p>

10. 本時計画（1/7時間）

（1）本時目標

生の野菜と炒めた野菜の観察・試食を通して、変化の様子(かさ、色、におい、味、かたさ)に気が付
き伝えることができる。

（2）本時の流れ

学習活動 C:予想される児童の反応	留意点	備考（準備するもの及び評価）
<div data-bbox="172 517 970 577" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">キャベツをいためるとどうなるのだろう？</div> <p>○生の野菜と炒めた野菜の観察と試食をし、変化の様子をワークシートに記入する。</p> <p>C:炒めると、量がすくなくなる。</p> <p>C:炒めるといいにおいがする。</p> <p>C:炒めるとやわらかい。</p> <p>C:炒めるとあたたかくておいしい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が炒め、変化の様子に注目させる。野菜の量は、同じにして、かさも見比べさせる。 ・ワークシートの絵で気が付きが難しい児童には、具体物を観察させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生のキャベツの写真<small>(掲示用)</small> ・IH コンロ、フライパン フライ返し、サラダ油 キャベツ、紙皿、フォーク ・炒めたキャベツの写真<small>(掲示用)</small> ・ワークシート <p>*評価【思考・表現②】は、個別目標参照</p>
<div data-bbox="161 1039 970 1099" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">グループで 分かったことを発表しよう。</div> <p>○ワークシートに記入したことを話し合い、グループでまとめる。</p> <p>○グループで発表する。</p> <p>○炒めるよさを知る。</p> <p>○次時は、炒め物を作る計画を立てることを知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全員、発言できるようにする。 ・司会は児童がし、記録は、教師がホワイトボードに記入する。 ・発表者を決め、全員で前に出て発表する。 ・2グループの意見をまとめる。 ・児童の気が付きが不十分な場合、ヒントを与えたり情報を補ったりする。 ・「自分たちでおいしい炒め物を作ってみたい。」「材料は、何がいいかな？」等、次回の活動に見通しを持たせたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホワイトボード・ペン ・司会者、発表者の名札、発表の順番の札 ・話し合いの進め方マニュアル <p>*評価【思考・表現③】は、個別目標参照</p>

10. 修正本時案（1/7時間）

(1) 本時目標

生の野菜と炒めた野菜の観察・試食を通して、変化の様子(かさ、色、におい、味、かたさ)に気付き伝えることができる。

(2) 本時の流れ

学習活動 C:予想される児童の反応	留意点	備考（準備するもの及び評価）
<div data-bbox="172 517 967 577" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> キャベツをいためるとどうなるのだろう？ </div> <p>○生の野菜と炒めた野菜の観察と試食をする。</p> <p>○変化の様子をワークシートに記入する。</p> <p>C:炒めると、量がすくなくなる。</p> <p>C:炒めるといいにおいがする。</p> <p>C:炒めるとやわらかい。</p> <p>C:炒めるとあたたかくておいしい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が炒め、変化の様子に注目させる。 ・よいつぶやきは、メモしておく。野菜の量は、同じにして、かさも見比べさせる。 ・最初にワークシートに生と炒めたキャベツのシールを貼らせ確認する。 ・ワークシートの写真で気付きが難しい児童には、具体物を観察させる。 ・机間巡視し、必要に応じて支援をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生のキャベツの写真(掲示用) ・IH コンロ、フライパン フライ返し、サラダ油 キャベツ(150g×2)、 紙皿、フォーク ・炒めたキャベツの写真(掲示用) ・ワークシート、キャベツ(生と炒めた物)のシール *評価(思考・表現②)は、 個別目標参照
<div data-bbox="161 1137 967 1198" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> グループで 分かったことを発表しよう。 </div> <p>○ワークシートに記入したことを話し合い、グループでまとめる。</p> <p>○グループで発表する。</p> <p>○いためるよさを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・色鮮やかでおいしそう。 ・やわらかく食べやすい。 ・たくさん食べれる。 ・短い時間で簡単に調理できる。 <p>○次時は、炒め物を作る計画を立てることを知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全員、発言できるようにする。 ・司会は児童がし、記録は、教師がホワイトボードに記入する。 ・発表者を決め、全員で前に出て発表する。 ・2グループの意見をまとめる。 ・児童の気付きが不十分な場合、ヒントを与えたり情報を補ったりする。 ・栄養面、衛生面にもふれる。 <p>・「自分たちでおいしい炒め物を作ってみたい。」「材料は、何がいいかな？」等、次回の活動に見通しを持たせたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ホワイトボード・ペン ・司会者、発表者の名札、発表の順番の札 ・話し合いの進め方マニュアル *評価(思考・表現③)は、 個別目標参照

当日の授業では、「グループの話し合い」までで時間がきてしまい、「グループ発表」と「まとめ」ができなかった。次の日に、「グループ発表」と「まとめ」を行い、次時の「おいしい野菜炒め物を作る工夫を調べよう」まで行った。

■成果

- 実態把握ができていた。そのため、個に応じた支援ができていた。
- 目で見ても分かりやすい教具・五感を使うための教具・分かりやすい指示の出し方等が工夫されていた。
- 具体的な体験が工夫されていた。今回は、実演が効果的であった。
- 話し合い活動が充実していた。話し合いの進行がパターン化されており、学習の積み重ねが見られた。
- 教室のユニバーサル化が学習に効果的であった。

⇒キーワード

個別の支援・話し合い活動の充実

- ユニバーサルデザイン

■課題

- つぶやきをどう捨てるかが大切。文章化して生かしていても良かった。
- 言語活動を更に充実させるために、支援ツールの活用が必要。子どもの実態に応じて、自分のつぶやきを子ども自身が記録したり、それが難しい子は、大人が使ったりすることが考えられる。
- 聞く姿勢の持たせ方もさらにしっかりと行っていきたい。
- 話し合いの司会・発言者のマニュアルのバリエーションを増やしさらに話し合いを深められるようにしたい。

⇒キーワード

支援ツールの活用

- 話し合いのマニュアルのバリエーションの充実